

## 新型コロナウイルスに対するファクターXは黄砂か？

新型コロナウイルスの感染者数および死者数の人口に対する比率が、日本の場合、欧米諸国に比べて極端に低い。日本人のマスク装着や手洗い励行等の清潔衛生習慣、日本株BCGの接種など、いろいろな仮説が取り沙汰されているが、本当の理由が何なのかは知られていない。この理由を京都大学の山中伸弥教授はファクターXと呼び、このファクターXこそ今後のウイルスとの戦いを左右すると述べている。一方、最近になって新型コロナウイルスに罹患した欧米の子供たちには日本や韓国などに患者の多い川崎病に似た症状が見られるとの報告がなされている。この川崎病には日本の乳幼児が世界で最も多く罹患し最近では年間1万5千人程度（年間出生数の2%近く）にも及ぶと云われている。川崎病を引き起こす原因がまだ特定されているわけではないが、中国大陸から気流により運ばれる黄砂等の大気汚染物質に付着した細菌などが強く影響しているのではないかと推定が気象データと発症日との比較からなされている。

先日、黄砂や大気汚染物質の長距離輸送に関する環境流体力学の専門家であり私の研究の師匠でもある京都大学名誉教授の植田洋匡博士と話をすることがあった。この時、植田博士は、「毎年、大陸からの黄砂に曝される日本や韓国をはじめとする東アジアの国民は川崎病に罹患する率が高いことからすれば、川崎病に対する何らかの免疫のようなものを持っている可能性があり、これが新型コロナウイルスに対する感染率や死亡率を引き下げているのではないだろうか」との仮説を展開され非常に興味深く拝聴した。この仮説が正しければ、細菌などが付着した黄砂の飛散量の多い日本をはじめとする東アジアの地域において新型コロナウイルスへの罹患率や死亡率が低い理由が説明できるのではないだろうかとのことで、黄砂の飛散量、川崎病の罹患率、新型コロナの罹患率の相関等を調べてみるのが興味深いかもしれないと議論が盛り上がった。

医学や疫学には全く縁のない環境流体力学を専門とする者が思いついた何の確認もない単なる仮説に過ぎないが、ファクターXを特定するためにも、無駄骨を覚悟で、川崎病罹患数の報告値を遥かに超える数の日本人が既に獲得しているかもしれない黄砂等由来の細菌などに対する免疫のようなものと新型コロナウイルスへの感染との関連性、つまり、細菌などを含む大気汚染物質の大陸からの飛散が日本人のコロナウイルスに対する生体防衛力を間接的に高めている可能性について一考してみるのも良いかもしれない。